

日本よりどうNuBits（ニュビッツ）を インターネット初の価格が安定した通貨として育ていけるかにつ いて

日本市場向けニュビッツ関連事業提案書

著者：[cryptog](#)
第一草稿作成日：2015年01月06日
最新改訂日：2015年04月10日
翻訳作成日：2015年05月07日
完成日：2015年05月10日

背景

ビットコインは革命を引き起こしました。
仲介人なしでお金の移動を可能としたビットコインは人類にとって革新的な発明となりました。
この革新を生み出したのはブロックチェーンという技術です。ブロックチェーンは分散型の台帳です。
ところが、ビットコインは通貨として出来が悪い訳です。その理由は価格が安定していないことにあるのです。
それ故に、日常生活の上での取引をするには適していません。
ただし、取引所間の価値の移動を行う場合には使い道があります。

そこで問題は分散型（集中排除）の利点を確保しながら価格の安定した暗号通貨が作れるかどうかなのです。

法定通貨の優れた面をなんらかの形で暗号通貨の中に実装すればその答えがイエスです。

しかし、法定通貨の優れた面はそもそも何か？

それは中央銀行が打ち出す金融政策によって常に価格が安定している特徴であると考えています。

ニュ

つまり、運用が分散化された中央銀行を作ってしまうえば本当の意味での暗号通貨ができるという意味です。

言い換えれば、分散化された方法で議決権を行使し金融政策を決定する仕組みを実装さえすれば良いわけです。

ニュは正にそれを実現させました。

<https://nubits.com/>

ニュはピアシェアズという設計図に基づいている、分散型自律的組織であり、価格が変動する構成要素、株式の役割を果たすニュシェアズを、価格が安定している構成要素、通貨の役割を果たすニュビットツから分ける仕組みから成り立っています。

ニュシェアズを所有する株主は投票を通じて、常に1ニュビットツ=1米ドルであり続けるように、つまりペグ、通貨価格固定化が維持されるように、金融政策を考え出し、その政策を可決するための議決権を行使します。

そのペグは設計上では必ずしも米ドルに固定しなければいけないという要素は一切なく、状況により必要であれば、その他の法定通貨に固定させることさえできるし、商品バスケットにだって固定させることもできます。

第一目のサービス： NBT/JPYの取引所

このビジネス提案書の中で、最初に作ろうとするサービスは、ニュービッツ（NBT）を日本円（JPY）で日本人ユーザーが簡単に購入できる、日本人向けのニュービッツを中心とした取引所です。

主要な取引ペアはNBT/JPYになる予定です。

ビットコイン（BTC）はニューの株主がニュービッツの流動性を提供するに当たって未だに致命的な役割を担っていることから、NBT/BTCのペアもこの取引所の中に導入するつもりです。

その上に、BTC/JPYのペアも加えれば、日本人の利用者がニュービッツを購入できる方法が増えます。

かと言って、ここで、日本人ユーザーが最も手っ取り早くニュービッツを購入できる方法として据えているのは、日本円を預金し、NBT/JPYのペアを使い、日本円をニュービッツと交換をするやり方です。

その場合、様々な取引所においてニュービッツの流動性を提供する取引ボット、[ニューボット](#)に日本円に対応させる必要が出てきます。

現時点ではまだ対応できていませんがUSD/JPYのレートを示すフィードをニューボットが吸収するフィードに追加さえすれば良い訳です。

また、日本人のトレーダー達がまず日本円でビットコインを購入し、そしてNBT/BTCを使い、最終的にニュービッツと交換をするという購入方もあります。

この第一目のサービスでは取引手数料を取れば売り上げの見込みが立てられます。

かといって、たくさんのユーザー登録を促すために最初は取引手数料を無料とします。しばらく運用時間が経過してから0.2%に持ち上げる予定です。

ベンチマーク

2015年4月8日現在で[Btcbox](#)さんは1日当たりの取引高がほぼ2000BTCに達している状況です。

1BTCを3万円だとすると毎日6000万円ぐらいの取引高を生み出していることを意味しています。

これは1日当たり約24万円を取引手数料として生み出しており、月当たりは720万円、1年あたりは8640万円となります。

ちなみに、Btcboxさんはローンチされてから一年しか経っていません。

また、もう既にご存知あるかも知れませんが、ニュビッツ対応の交換所におけるニュビッツの全体的な取引高がピークに達した頃に、今年の1月の頃に、[CCEDK](#)さんのニュビッツ取引高が1.2億円を上回る日もありました。

CCEDKさんの取引手数料が0.2%になっているため、毎日これぐらいの取引高であった場合、1日あたりは約48万円、一月あたりは約1440万円、1年あたりは約1.72億円が手数料として徴収できると想定できます。

ちなみに、CCEDKさんは、ニュビッツに対応した初の取引所であり、ニュビッツが2014年9月にリリースされてから、たった4ヶ月間でこの出来高に達しました。

上記の数字を踏まえると、引き出しなどその他の手数料を売り上げに含めなくとも、取引手数料だけでニュビッツの取引所事業を黒字化できそうだということが分かります。

日本人のトレーダー

本提案書に出現するニュビッツ交換所を最初に利用すると考えられるユーザーは大きく分けて二種類いると想定しています。

一つ目は所有する暗号資産の価値をヘッジすることを目的とするトレーダー達で、二つ目はBTC/JPYよりも遥かに高い流動性を誇るBTC/USDの市場に触れたいトレーダー達です。

後者は取引所で日本円でニュービッツを購入した上で、BTC/NBTを取り扱っている、海外にある交換所にそのニュービッツを送金します。そして、それらの取引所でBTC/NBTをトレードすれば実質的にはBTC/USDをトレードしているも同然です。

第二目のサービス： 日本人利用者向けの海外送金サービス

第一目のサービスで、ある程度の高い取引高を取得できた時点で、第二目のサービスをリリースするつもりです。それは日本人がニュービッツで日本円を海外送金できるサービスです。

まずは送金者はニュービッツ取引所に日本円を預け入れた上で、NBT/JPYを通してニュービッツを購入します。

そして、NBT/EURあるいはNBT/USDあるいはNBT/CNYあるいはその他のNBT/法定通貨のペアが、ある程度の流動性が動いている、欧米または中国またはその他の国を拠点とする交換所を一個取り上げ、その交換所に決めた額のニュービッツを送金し、その交換所に属している利用者のニュービッツアドレスでニュービッツを受け取ります。

ユーロまたは米ドルまたは中国元またはその他の法定通貨と交換し、該当国で利用者が持っている銀行口座に引き出します。

このサービスは伝統的に銀行が提供している、旧来の海外送金サービスに比べて、かなり低コストで実現可能であると想定するために、沢山の売り上げを生み出せると予想できます。

上記は次の2点が前提とされています。

- 第一目のサービスにおけるNBT/JPYの流動性が高いこと
- NBT/法定通貨のペアを取り扱う交換所は世界中にいくつかあり、その上にそこそこの出来高を持っていること

第三目のサービス： 日本人向けのニュビッツオンライン決済サービス

次の段階はオンライン決済を行う際に、日本人の消費者がニュビッツを採用するようにすることです。

そのために第三目のサービスをローンチするつもりです。

それはニュビッツオンライン決済サービスです。このサービスでは日本人消費者がインターネット上でショッピングをする際にニュビッツ決済が経済的でありながら素早いことからニュビッツでのお支払いを選択します。そして、日本のオンライン商人がこのニュビッツを簡単に受け付けられます。

最終的に日本円を受け取りたい場合はニュビッツより日本円への変換もできるようにします。

言うまでもなく、ニュビッツ（常に1ニュビットが1米ドルに等しい）が安定した価格を有していることから、オンライン商人は受け付けられたニュビッツを必ずしも日本円へ変換をする必要がないと予想しています。ちなみに、変換を実行する場合は第一目のサービスであるニュビッツ交換所を使用するが良い訳です。

従って、このニュビッツ決済サービスはどちらかといえば、ニュビッツで決済をするための出入り口、いわゆるペイメントゲートウェイに近い訳です。それは結局ビットコインではなく法定通貨を最終的に受けるために商人が使うビットコイン決済サービスと対照的です。

ところが、日本の法定通貨は日本円であることから、ニュビッツを日本円に変換する必要は出てきますが、この場合の変換が実行される理由はビットコインのように暗号通貨の価格が安定していないからではなく、通貨の為替の問題があるからです。ちなみに、外貨為替市場は遥かに

ビットコイン/法定通貨市場よりも高い流動性を誇っており、その上に確認数の問題はないために、実質的に低コスト及び高い信頼性で、ほぼ瞬間的に交換が行えます。

このニュビッツオンライン決済サービスはクレジットカード決済に比べて、手数料をかなり低く設定できることから、沢山の日本人オンライン消費者および沢山の日本を拠点とするオンライン商人によって採用されることを期待できます。

こうしてオンライン上での決済が1日当たりの取引量が膨大になってしまえば、日本のオンライン消費者はいちいち日本円への変換をする必要なしに直接にニュビッツでの取引をするという、近い未来が見えます。日本円に固定化されているニュビッツも可能な訳、必要であればそちらを採用します。

段階	サービス	ユーザー
1	NBT/JPY 交換所	日本人のトレーダー
2	日本より海外への送金サービス	日本人の海外送金者
3	オンライン決済サービス	日本人のオンライン消費者

グローバルへ

この3段階から成り立つニュビッツの順次採用は、日本円以外の、法定通貨に応用できない理由は見当たりません。

従って、上記の過程を使えば、世界のどこの国にもニュビッツを普及させることができると考えられます。

インターネット初の本当の意味での通貨へ

インターネットでの買い物をする際に、世界中の一般的な消費者の大半がニュビッツで決済するようになったら、インターネット初の通貨が誕生したと言えるでしょう。

これは3年以内に実現が可能であると確信しています。

出典

- <https://nubits.com> (英語)
- <https://discuss.nubits.com> (英語)

参考リンク

- <http://www.cato.org/blog/bitcoin-might-not-be-money-cryptocurrencies-are-way-future> (英語)
- <http://www.coindesk.com/japanese-scholars-draft-proposal-better-bitcoin/> (英語)
- http://coinandpeace.hatenablog.com/entry/how_NuBits_peg_to_one_USD (日本語)

ここまで読んでいただきありがとうございました。